

## おいとください

田中 愛子

万歳とホールドアップの違いなどひとくさり言つて万歳はせず 真中朋久「短歌」2020年10月号

万歳は祝うべきこと。そして、祝福のために両手を上げる動作である。ホールドアップも同じような動作である。

拳銃を構えた男が発する言葉だ。「手を上げる。」同じような動作であるが、意味することは正反対とは言わないまでもずいぶん異なる。作者はこんなことに触れたのだろうか。そういうえば、万歳の動作は、どうにもしようがなくなる「お手上げ」も表す。所作だけでなく、ことばにもそんな意味の離れた例がある。

最近、短歌仲間から受け取ったメールの末尾に「こんな時期です。お身体おいとください」とあった。こんな時期とは、コロナ禍の今である。この「おいとください」

の「いとう」を感じて書くと「厭う」である。「厭う」は一般的には嫌うの意であるが、さきのメールのように、他人の健康を気に掛けるときにも使われる。あらためて広辞

苑で確かめると、一番に、好まないで避ける、嫌がるとの語釈があり、ついで、この世を避け離れる、出家する、害ありとして避けると続き、四番目に、いたわる、かばう、大事にするの語釈があらわれる。「おいとください」の使い方はむろん、これによっている。日本国語大辞典もほぼ同じ語釈である。しかし、「嫌う」と「大事にする」とでは、対極にあるような感じだ。同じ言葉なのに逆の意味をもつものがある。なぜだろうか。

試しに「厭ふ」を古典基礎語辞典で見ると、いやだと思ふものを避ける意、自分が身を引いて避ける意であるとの解説があり、「世をいとふ」は「世の中をいやだと思ふだけでなく自分から引き下がって隠遁することであり、中世以降、雨風など害をなすものを避けて身を守る意でも使われ、転じて身をかばう、大事にするの意が生じた」と説明されている。これを見ると言葉の意味の流れがわかる。

さて、もうそろそろ新米が出回るころである。テレビで栃木産のお米を宣伝していた。とちほのか、なすひかり、とちぎの星…。この「星」は、空の星ばかりでなく、光り輝くものを示している。希望の星や中年の星などまぶしい存在だ。でも同じ「ほし」ながら、

今朝の猫視線びつびつと飛ばし行くホシ、追ひかける刑事のやうに 小田部雅子「コスモス」2020年4月号  
こちらのホシは：いけません。